

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
 - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさや切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをするときと生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2に区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 警告**：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。
- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
- 絵表示の例

記号は行為を禁止する内容を告げるものです。
図の中や周囲に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。
- 警告**

● 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

● 交流 100V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります

● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります

● 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

注意

● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的な資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けすること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

● レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用し可燃物を覆うこと
火災などの原因になります

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

注意

● レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けすること
漏電した場合、発火するおそれがあります

● アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

● 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります
- 注意
- 注意**

● 浴室など湿気の高い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります

● 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

● 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

● 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

注意

● レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります

● 部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります

● 作業は 2 人以上で
レンジフードは約 35kg の重さがあります
- 取り付け上のお願
- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的な資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等】
 - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
 - ・流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
 - ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
 - 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。捕集性能が低下します。
 - 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m²/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。防雨網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
 - 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気性能をいじめるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
 - ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください（目安：勾配 1/100 ～ 1/50 程度）。雨水の浸入や結露等の逆流の原因になります。
 - レンジフードは調理機器の真上に取り付けてください。なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。
 - レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の上からは高温になるため故障の原因になります。
 - 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
 - 部屋の中央で調理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただくれば、よりすぐれた換気ができます。
 - 建物が密閉されている場合は、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。
 - 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
 - レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。レンジフードへの通電が遮断されますと、お手入れ時の表示（お手入れランプ）を正しくお知らせできません。
 - 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。
 - 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも、建物の気密性によって給気が必要となる場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。
 - 風量おまかせ運転（風量自動切替）機能を正しくお使いいただくために、別冊に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。
- 取り付け前の調査と準備
- 警告**

● 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります

● 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

注意

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

● レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用し可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

● レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けすること
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 1 取付面所の強度確認

製品を支える強さが必要です。
製品重量 35kg

2 天井面への穴あけ（取付詳細図 1）

※取付面は必ず不燃処理をおこなってください。
1) 天井面のレンジフードを取り付ける位置に開口 515mm × 奥行 350mm の開口をあけてください。
2) 開口部周辺を補強線で補強してください。
※補強線は、野縁・野縁受け等に固定してください。

3 吊りボルトの取り付け（取付詳細図 2）

レンジフードの吊りボルト位置に合わせて、吊りボルトを垂らしてください。
※吊りボルトは、M10 ～ 12 を用いてください。
※吊りボルトは製品を支える十分な強度を確保してください。必要となる強度は、建物の条件、耐震クラスなどにより異なります。

4 排気ダクトの取り出し（取付詳細図 2）

φ 150 のスパイラルダクトを、取付詳細図 2 の位置に取り出してください。

5 標準取付寸法

本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm です。
※火災予防条例では、グリッドフィルター（デイスフ）の下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

6 電源コンセント・ブレーカー

電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。

お願い

必ずアース工事（D 種接地工事）をしてください。
レンジフードが誤動作することがあります。
- 各部のなまえ
-
- 付属品
- トラスねじ (M4 × 6) 4本
ダクトカバーおよびフードの取り付けに使用します。
 - ナベねじ (M5 × 10) 8本
フードおよび本体前ふたの取り付けに使用します。
 - フード固定金具 1個
フードと本体の固定に使用します。
 - ソフトテープ 2本
給気口・排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。
- 製品寸法図
-
- 取り付けかた
1. 付属品の確認
- 注意
- 注意**

● 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

付属品を確認します。
梱包箱から付属品を取り出し、上項の付属品一貫により不足がないか確認します。

お願い

● 保護用のクッション材と固定テープは、破損防止のため、「3. フード・本体の準備」まででずさないでください。（図 1-1）
● フード天面に貼られている保護用テープは「4. 本体の取り付け手順」の 5) にて指示があるまではがさないでください。（図 1-1）
● 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
● 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
2. 取付準備
- 警告
- 注意**

● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けすること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

● 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

● レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用し可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください
- 注意
- 注意**

● 浴室など湿気の高い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります

● 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- 1 事前に管工事業者（法的な資格者）へ天井面へのダクト穴の開口を依頼してください。（図 2-1）
また、天井開口部近辺の補強線または野縁等に専用コンセントを設置します。

2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。（図 2-1）

3 M10 ～ 12 の吊りボルト（取付作業側手配）を 4 本、天井内の梁などの補強部分に固定します。固定ピッチは前後 300mm、左右 454mm です。（図 2-1）

お願い

天井面からのダクトと吊りボルトの突き出し長さ（A）は、製品総高さ（範囲：600 ～ 760mm）により異なります。製品寸法図を参考にし、次式により算出してください。
吊りボルトの突き出し長さ（A）＝「製品総高さ」－ 445
ダクト突き出し長さ（B）＝「製品総高さ」－ 505

例

製品総高さ 吊りボルトの突き出し長さ（A） ダクトの突き出し長さ（B） ※製品総高さ 寸法は、「ダクトカバー」の付属品です。

600	155（＋10）	まで	95（＋10）	まで
680	235（＋10）	まで	175（＋10）	まで
760	315（＋10）	まで	275（＋10）	まで
3. フード・本体の準備
- お願い

● はずしたねじは取り付けの際に使用しますのでなくさないでください。
● はずした部品は変形させないよう、平らな場所に置いてください。また、はずした部品で床などにキズをつけないようご注意ください。
● 金具の変形防止のため、（図 3-1）のように必ず天井パットの上面パットを載せ、その上にフードを置いて作業してください。

フードの準備

1 整流板ははずします。
1) 保護用のクッション材をはずし、整流板の左右にあるストッパーを押してはずします。（図 3-1）
4. 本体の取り付け
- 注意
- 注意**

● レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります

● 部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります

1 レンジフードの固定位置を決めます。（図 4-1）
1) 右図を参照し、次式によりマーカ位置（X）の値を算出してください。
X＝「天井高さ」－（床から調理機器上面までの高さ）＋ 800 + 465
例：天井高さが 2350mm、床から調理機器上面までの高さが 850mm の場合
X＝2350－（850＋800＋465）
天井からのマーカ位置（X）は 235mm となります。
2) 吊りボルトにマジックペンなどで、天井から X の値の位置にマーカをつけます。

2 ダクトカバー（別売品）を取り付けます。（図 4-2）
ダクトカバー付属品の底ねじ（φ 5.1 × 25）4 本でダクトカバーを天井面に固定します。

お願い

切り欠きのある面をレンジフードの前後方向にしてください。向きを間違えると本体との固定ができなくなります。
- 3 吊りボルトにナットを取り付けます。（図 4-3）
M10 ～ 12 のナットおよびワッシャー（取付作業側手配）を吊りボルトのマーカ位置まで差し込みます。

4 本体を吊りボルトに固定します。（図 4-4）
1) 取り付けたダクトカバーに本体両脇のガイドを差し込みながら本体を持ち上げ、4ヶ所の吊り金具に吊りボルトを差し込み、吊り金具を挟み込むように吊りボルト下側から M10 ～ 12 のワッシャーおよびナット（取付作業側手配）でしっかりと締め付けます。

お願い

ダクトに給気口・排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

2) 「5. 電気配線」を一読してから、電源プラグを天井裏などのコンセントに差し込みます。
※必ず分電盤のブレーカーを「切」にしてからおこなってください。
※必ずアース工事（D 種接地工事）をしてください。

5 ダクトと給気口・排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 4-5）

6 給気口・排気口設置面の風漏れ確認のお願い（図 4-6）
給気口・排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの給気口・排気口を接続しようとすると、給気口・排気口と給気口・排気口の設置面（フード天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。漏風の場合は、給気口・排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。
- 4-9 ナベねじ (M5 × 10) 8本
フード固定金具

4-10 保護用テープをはがします。（図 4-10）

4-11 コネクタを接続します。（図 4-11）
下図を参考に、フード側と本体側の各コネクタ計 6ヶ所を接続します。

お願い

● コネクタを挿入する際は、ツメ向きを合わせて確実にロックしてください。
● コネクタの接続は確実にすること。接続が不十分な場合、正しく排気ができなくなり、故障などの原因になります。また、配線類を損傷しないようご注意ください。

コネクタを挿入する場合

裏面から挿入し、裏面に押し込んでください。

裏面から挿入し、裏面に押し込んでください。

正しい差し込み方

誤った差し込み方
5. 電気配線
- 警告
- 警告**

● 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

● 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります

● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的な資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

● アースを確実に取り付けすること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

「4. 本体の取り付け」手順 4 の 2) で以下の作業をおこないます。
分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い

● 電源は専用のコンセント（2 極接地極付差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
● 「6. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
● コンセントは電源コードの長さ（機外長約 1m）を考慮し、設置してください。
● 必ずアース工事（D 種接地工事）をしてください。
- 裏面に続きます。

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

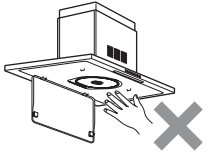
取り付けかた

6. 試運転

⚠ 注 意

- 

● 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

接触禁止
- 
- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
 - 前ふたは取り付けしていない状態で試運転してください。
 - 整流板やディスクが正しく取り付けられていることを確認してください。整流板が正しく取り付けられていないと、運転停止機能により運転ができません。ディスクを取り付けていなかったり、取り付けが不完全な状態で運転すると、ディスク付け忘れお知らせ機能により、付け忘れをお知らせします。整流板とディスクの取り付けについては取扱説明書をご覧ください。
 - 運転時、各運調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
 - 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
 - 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
 - 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
 - 自動運転機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

7. 本体前ふた・横ふた・前ふた・後ふたの取り付け

- 横ふたは左右同一品です。

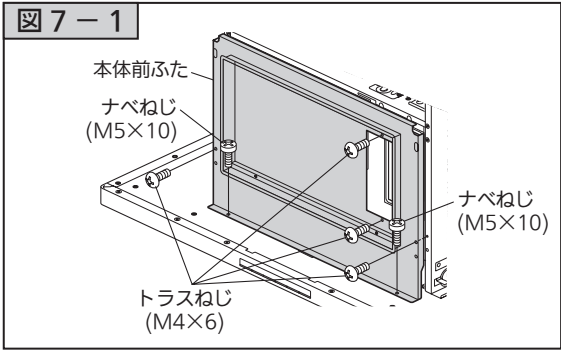
- お願い
- ・ 取り付ける際は、フード天板面にキズをつけないように注意して取り付けてください。

1

本体前ふたを取り付けます。
(図 7－1)

1) 「3. フード・本体の準備」手順 3
ではずしたトラスねじ 4 本でフ
ード天面に固定します。

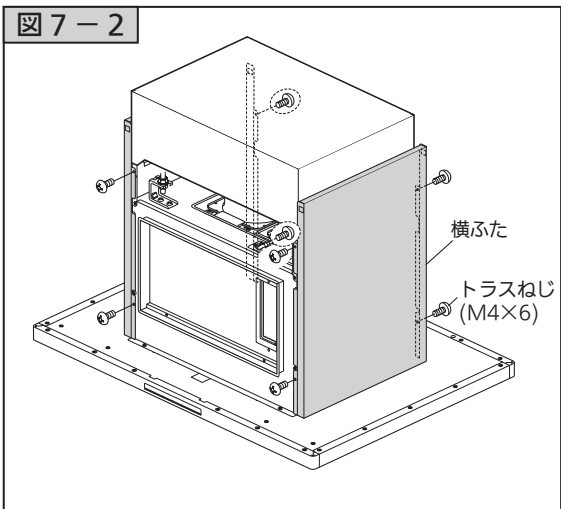
2) 本体前ふた下端を付属品のナベ
ねじ (M5×10) 2 本でフード天
面に固定します。



2

横ふたを取り付けます。(図 7－2)

「3. フード・本体の準備」手順 2 で
はずしたトラスねじ (M4×6) 各 4
本を使用して横ふたを取り付けます。

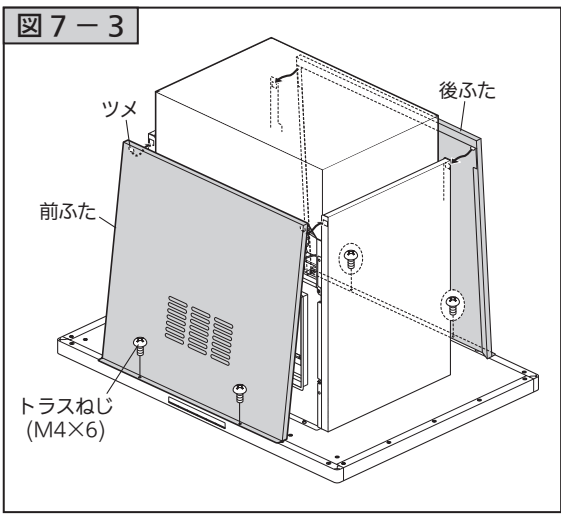


3

前ふた・後ふたを取り付けます。
(図 7－4)

1) 前ふた上端のツメ 2 ヶ所を本体
に差し込み、付属品のトラスねじ
(M4×6) 2 本で前ふたの下端を
フード天面に固定します。

2) 後ふたも同様の手順で取り付けま
す。



※ 取付作業完了後は製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープは
もとの状態に取り付けてください。

8. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

【製造元】 **—FUJIOH—** 富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 番 9 号
TEL 042(768)3754 (営業部)